

ゴミ減量化推進環境クリーン事業

取り組みに至る背景・事業の目的

家庭等から排出される一般ゴミやリサイクルゴミの分別は、住民意識の浸透により効果が上がってきている一方で、生ゴミなどの可燃ゴミの搬出量は増加しており、焼却時の二酸化炭素の抑制やゴミ処理費の削減などを図ることが課題となっていた。

住民の知恵と積極的な参加によるゴミ減量化の取り組みを図るため、ゴミは「資源」という観点から、環境活動等を行っている団体や目的に賛同する住民等により、ゴミの減量化を推進する団体が組織された。

事業内容

- 平成18年度から3か年を生ゴミ減量化の第1期計画として位置づける。
- 生ゴミ堆肥による野菜の生育実験を実施
微生物を利用し生ゴミ堆肥づくりを行い、大根・野沢菜を栽培し、育成状況をビデオ撮影し啓発を図る。
- 普及啓発講習会の開催（延べ153名参加）
 - ・生ゴミの堆肥づくり講習会（7月）
 - ・生ゴミ減量化講演会（9月、11月）
 - ・エコクッキング講習会（12月）
- ぼくも私も環境博士事業を推進
美化への関心を高めるため、長年環境美化活動に尽力した3団体を表彰
- 先進地視察
視察研修を通じて循環型によるゴミ資源化の意識向上を図る。



事業効果

- 微生物を利用した生ゴミの堆肥を使って農作物の生育実験を行い、結果は納得できる成果を得ることができ、実践を試みる人達が増えてきた。
- 当会の活動は新聞やテレビで報道され、住民ばかりでなく近在の市町村からの問い合わせが増えた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 平成20年度では、子ども達や住民向けのチラシ、ビデオを作製し会員自らが啓発事業の講師となって普及を行う。また、地域の住民や参加者の意見等を加えながら、啓発を行っていく。
- 「ぼくも私も環境博士表彰事業」を展開することにより、ゴミの発生量の抑制、環境浄化を積極的に取り組む人づくりの推進を行う。
- 野菜くずを飼料としたニワトリの卵を使用して「立科カステラ」を試作し町の賀詞交換会で初披露したところ好評を得たことから、今後、イベント等で町の名物として普及等を図っていきたい。

【選定のポイント】

生ゴミの資源化を普及することにより、環境保全に取り組む気運が醸成された。

団体名：すずらんの里ゴミ減らしま専科（立科町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先（電話 0267-56-2311、FAX0267-56-2310、 E-mail:t-kankyoutown.tateshina.nagano.jp）	事業費	427,783円
	支援金額	370,000円